

電子ジャーナルの紹介、2 回目は英国の出版社 NPG (= Nature Publishing Group)を取り上げます。総合科学誌『Nature』を筆頭に、EMBO journal, Nature 姉妹誌, NPG Academic Journal, Scientific Americanなどを発行しており、本学ではこのうち『Nature』を含む33誌についてサイトライセンス契約を結んでいます。

『Nature』(<http://www.nature.com/nature/index.html>)を例に、オンライン先行論文、最新号、バックナンバーの順に見かたを説明していきます。

オンライン先行論文が掲載される場所は、出版社によって名称が異なりますが、NPGでは「Advance online publication」に公開日ごとにまとめられています。例えば「月×日付のNature電子版に発表した」という新聞記事から該当論文を探したいときは、ここをクリックしてみましょう。報道された情報(日付・研究者名・所属機関名・内容)にとらわれ過ぎると探せないことがあります。時差がある、第一著者とは限らない、特徴的なキーワードが必ずしも論題に出てこない等を念頭において探すのがコツです。

次に、最新号の閲覧ですが、トップページに掲載されている表紙の絵または「Current issue」をクリックすると目次が現れます。

バックナンバーは、「Archive」から入り、契約している1997年まで遡ることができます。アーカイブのデジタル化事業は5年の歳月を費やして2007年に完了し、Nature archive1869-1949, 1950-1986, 1987-1996の3種類がリリースされていますが、本学では残念ながら購入しておりません。

『Nature』と一部の姉妹誌は、タイトルや論文の要約が日本語でも記載されています。

科学コミュニケーションの推進に力を入れているNPGは、厳しい査読で論文の質を保つ一方、未発表の研究成果や実験途中のデータを共有するための場として、コミュニティサイトを立ち上げています。Nature Precedingsと呼ばれるこのサイトは、管理者による簡単な審査はあるものの投稿から24時間以内に公開でき、評価は誰でも参加できるコメントと投票により行われています。

2010年4月、NPGは新たな出版モデルによる電子版オンリーの雑誌『Nature Communications』を創刊します。生物・化学・物理学分野を対象とする査読誌で、論文著者が、従来の定期購読方式で出版するかオープンアクセスで出版するかを選べるというものです。

### \*\*\* 図書館トリビア \*\*\*

2009年新語・流行語大賞のひとつに選ばれた「事業仕分け」、政権与党となった民主党が無駄な予算を削減すべく大ナタを振るいました。仕分けの矛先は科学技術予算にも向けられ、大学の学長やノーベル賞受賞者が記者会見を開いたり、緊急声明を発表したりと騒ぎとなったことは記憶に新しいですが、この話題は『Nature』にも取り上げられ、翻訳した内容がNPGネイチャーアジア・パシフィックのサイト(<http://www.natureasia.com/japan/nature/special/>)に掲載されています。興味のある方はご覧ください。

メールマガジンに関する意見・質問は、運用係 [circ2303@lib.iwate-med.ac.jp](mailto:circ2303@lib.iwate-med.ac.jp) まで。

<編集・発行> 岩手医科大学附属図書館